

散策が3倍楽しくなる?! はやわかり「矢野」【資料編】

■矢野の伝統産業「かもし」づくり

- ・髻(かもし)とは・・・女性が髪型をととのえるために、中に入れこんだり添えたりする髪の毛をいう。
- ・江戸時代初期、寛永年間(1624～1643年)に大阪屋吉兵衛がはじめたと伝えられる。
- ・なぜ矢野で?

油抜きに必要なひげ土といわれる粘土が町内でとれた。

谷あいから流れ出た豊富な水が町内を流れていてかもし洗いに適していた

- ・最盛期は大正時代。

全国生産量の7割を占めるにいたり、矢野の住民の8割近くが髻に関わっていたといわれる。

(※大正9年 戸数1223戸 男2645人、女2853人 計5498人)

- ・戦争の影響や時代の流れで多くの業者が廃業した。現在は、「クスノキ」(矢野東)1社のみが、洋かつらにかもし技術の伝統を継承し、製造・販売している。※クスノキ:直営店KSNOK'S(クスノクス)本通りほか、ガン患者への、かつらの寄付運動も行っている



大正11年ごろのかもし作りの様子



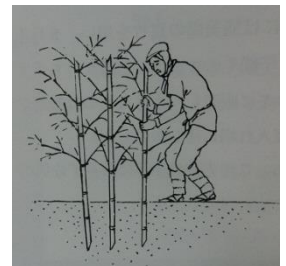
かもし洗い場

■矢野の伝統産業「カキ(牡蠣)養殖とカキ船」

- ★矢野大井の和泉(灘)源蔵、寛永4年(1627年)、ひび立て養殖に成功「矢野かき」の祖となる

ひび立て養殖法 竹や雑木を干潟に立てカキを付着させ、生育を待つて収穫する方法。収穫までそのまま養殖する方法と、途中でカキを落として地蒔養殖を行い収穫する方法がある。17世紀初期から昭和初期までの約300年間おこなわれたといわれる。

- ・海沿いの大井・大浜地区は、漁船溜り、商港として栄え、牡蠣料理を出す「牡蠣船が」阪神を中心に瀬戸内海沿岸の各地に進出した。
- ・矢野浦のかき船の数は多く、その昔カモジ売りが全国を売り歩きながら、手引きをした物語」が伝わる。かもしの販売・行商で、各地の必要とする商品の情報を得ていたというのである。矢野のかきとかもしとの関連性は、密接であつたらしい。



牡蠣船

■ 社倉法(しゃそうほう)・・・矢野の団結力の元！？

社倉(しゃそう)とは、飢饉に備えて穀物を特別に貯えておくこと。貢租、課役の負担の過重な江戸時代には凶作のたびごとに飢饉が起っていた。18世紀頃から全国諸藩の中ではこの制度をはじめめる例が見られた。矢野村では、尾崎八幡神官の香川正直(かがわまさなお)の指導によって寛延2年(1749)社倉法による備荒貯麦を周囲に先駆けてはじめていた。そして、宝暦6年(1756)の飢饉の際には藩の救済を受けずに1人の飢餓(きが)人もださなかった。その効果の大きいことを認めた広島藩では、安永8年(1779)藩内全部の村々に社倉法の実施を命じ、以後、明治初年まで存続した。



ちょうさい (復活した近年の写真)

社倉総鎮守の尾崎神社と秋祭りの頂戴(ちょうさい)

矢野の祭りをにぎわす山車(だし)に「頂戴(ちょうさい)」がある。

尾崎神社の神輿渡御の案内・先祓いを争うて、たがいに揉みあった。これを、ちょうさい喧嘩といって、面白く見物した。御旅所は姫宮神社である。頂戴は神輿の御通りを早めまいとしてなかなか動かないので、その中を赤鬼や青鬼が出てきて御渡の進行を取り計らう・・・

○尾崎八幡宮(尾崎神社) 野間氏の矢野に入ってから始まる。文明2年(1470年)「宮のうね(現:矢野西小学校)」につくられた。慶長19年(1614)現在のところ(尾崎山)に移った。明治13年(1880)郷社となり、昭和8年(1933)社格は県社となった。10月に行われる祭りは、秋祭りといわれるが子どもたちは”おにまつり”とも呼ぶ。

○姫宮神社 姫神を祭る姫宮社は、鎮座不詳(ちんざふしょう)の古い社(やしろ)。元禄4年(1691年)、尾崎神社の御旅所(祭礼の御輿が渡御して仮にとどまる所)は、荒神社から姫宮社に変わって現在に及ぶ。川向うに姫宮神田(しんでん)があり、姫宮早稲(わせ)を作り、領主に奉納していた。

頂戴にみる、江戸期の矢野の時代背景

頂戴は上方から移入されたと伝えられる。頂戴の型は、京都祇園の鉾台とも大阪の団尻型とも伝えられる。最初にもたらしたのは町若連中で、江戸中期の文化年間(一八〇四～)、すなわち十九世紀初めと察せられる。頂戴が上方から移入されたのは、かき・かもじに特徴づけられる江戸期の矢野の商工業の発展をかえりみれば肯けられるであろう。(当村から蛸業者で堺や大坂・兵庫へ向かっているところから、山車の購入が容易に行なわれたものと思う。矢野の蛸業者が大坂に進出したのは1767頃から)。

一方、尾崎神社は広島藩の社倉総鎮守、薄費で社倉祭が執行されていた。薄の重役連の八幡宮への代参、盛大な祭礼の執行、藩費による社殿の造立・修理など、矢野村は文化的華やぎに満ち、こうした中に御輿の渡御、頂戴や獅子舞の奉納が盛んに行なわれるようになったものであろう。

参考:ちょうさいの囃唄(はやしうた)・・・「かき舟歌」・・・蛸屋仕舞うたらよ 早う出航(で)て帰れ 冬の寒さを寝て忘れよう 大井細越は涙で出航(で)たがよ 横(坂村横浜のこと)の森山は 唄で越すよ